

ふる～ぶ

吉野川ファン通信

VOL.80
2006/10



Fleuve:「ふる～ぶ」はフランス語で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

1 [特集] 吉野川アラカルト

三好和義さんと撮影した 夏の吉野川。

徳島市出身の写真家、三好和義さんの指導で、
県内外の方々と吉野川へ撮影に行ってきました。

3 吉野川いまむかし 大歩危・小歩危編

4 ふる～ぶ編集部がおじゃまします! 河内小学校「大好き!わたしたちのふるさと、河内」 吉野川ミニ辞典 「一級水系」「一級河川」

5 ふる～ぶめいと通信 西瓜コンクール ふる～ぶ展が開催されました

6 Re♪Re♪Re♪エッセイ 今回は最近ちよっと気になる 我が家のハーブをとりあげてみました。 ふる～ぶINFORMATION 竹細工教室参加者募集のお知らせ

7 よりよい吉野川づくり(第17回) 吉野川水系河川整備計画【素案】 一吉野川の河川整備(直轄管理区間)一について 1回目の意見を聴く会がすべての会場で 開催されました。

ふる～ぶひ・ろ・ば
編集後記・今月の表紙イラスト・おたより・プレゼント



三好和義さんと撮影した 夏の吉野川



源流から河口まで、吉野川は、さまざまな表情をもっています。

吉野川から名づけられた中流域の吉野川市。吉野川を題材に観光PRをしよう、吉野川市観光協会では、さまざまな取り組みを行っています。その一環として、吉野川の写真集第二弾の発行に向けて、吉野川市内の撮影を行っている日本を代表する写真家である三好和義さんの支援を行っています。撮影された写真を新しい吉野川のパンフレットや、ポスターにも使用する予定です。また、吉野川市で8月に開催された三好和義写真展「赤い楽園・青い楽園」（吉野川市観光協会主催）では、吉野川を撮影するきっかけとなったサハラ砂漠と、水の豊かな吉野川との写真を対比した作品が展示されました。

今回編集部では、8月9日に吉野川市観光協会とアサヒカメラの主催で開催された写真教室「三好和義氏とNikon D200で撮る夏の吉野川」に同行取材をさせていただきました。三好さんが、写真教室を開催する機会に恵まれないそうで、地元吉野川市をはじめ、栃木県、神奈川県、大阪府など、多くの応募者の中から厳正な抽選の結果、選ばれた20名が参加しました。

「赤い楽園・青い楽園」写真展会場に 「こんなにきれいな鳥が吉野川にいる」

地元の、吉野川市山川町の阿波和紙伝統産業会館の和紙を使って、プリントされた作品の説明からスタート。今年8月に吉野川で撮影したカワセミの写真です。和紙のやさしい雰囲気と写真が重なり、まるで1枚の絵のよ

うな作品になっていました。水面におちた葉の一枚、霧につつまれた善入寺島…いつも見ている風景が三好さんの作品になると、全く違ったもののように見えます。こんなにきれいだったのかと改めて感じました。

写真展の様子。
右はカワセミの写真。



「撮影会スタート! 吉野川市美郷 高開の石積み」

「地元でこういった撮影会ができるのがうれしい」

「写真は心を写すんですよ。きれいやな一。いいなあ、と思ってから撮らないと」

話を聞きながら高開の石積みへ到着。まさに晴天。雲をさがすのにも苦労です。「ここは高さがあって空気も澄んでいる。まるでチベットみたいな青い空の色になってますよ」と三好さんがセッティングした、PLフィルターつきの広角カメラのレンズ

の中を覗き込むと、石積みと青い空が異国のような雰囲気になり、チベットにいるような気分になってきました。

太陽がでている方向にカメラを向けてしまうと、青空でも少し白っぽく写ってしまう。太陽がでていない方向に向けて写真を撮り、露出も調整すると青く空が写ると教えていただき、さっそく露出を太陽の位置を考えながら撮影。露出を0、-1、+1と変えながら何枚も撮影しました。確かに空が

見たままの青さに写ります。なるほどと納得しながら撮影を続けました。デジタルカメラは撮影した写真を確認できるのがいいところだと今さらながら感じました。

三好さんセッティングの
ファインダーを覗く参加者



変わった帽子の男性モデルは地元の方。
高開の石積みを見学...



📷 吉野川市川島町 川島潜水橋にて

「風がなくて、吉野川が鏡みたいになっとう。

これはええ写真がとれるよ。こんな日はめったにないよ」

「さあ、撮るぞ!」と編集部も意気揚々と出陣。お遍路さんが潜水橋を通る姿や、カンドリ船などを撮影。



当日はカンドリ船も

お遍路さんやカンドリ船など、まさに徳島らしい風景です。今までは、写真を撮

影する時に、船なら船しか気にとめていない部分があったのですが、そうではなく、周りの風景を見て、考えて撮影することがどれだけ大切



川島潜水橋での撮影会

なかが分かりました。風がない日であれば、水面にカンドリ船が映り船頭さんの姿も映ります。水面に映る風景も写せばそれだけ、写真を見る人にとってもこの日の風や、景色がより鮮明になります。「高越山をいれると徳島でしか撮影できない風景になる」ということが分かり、シャッターを切りながら、なるほど、なるほどと思う連続でした。「こんなきれいな川がある、自分が伝えたいメッセージも考えて撮ると、より人に伝えることができる写真になりますよ」と聞きながら、撮影を続けました。

そして撮影会終了後、みなさんが3枚の写真を選択。「いい写真とうまい写真は



真剣にファインダーを覗く参加者のみなさん

違う。気持ちを選んでいる写真を選んでください」とアドバイスがありました。

県外の参加者からは「川がきれいではびっくりしました。お遍路さんも写せてよかった」(横浜)、「吉野川は雄大。大きくてきれい。山や橋など多くの風景があるのがいいですね」(板木)。

地元の参加者からも「近くで同じ場所を撮影しているけど、毎回表情が違う。今日は水彩画のようでした。写真のとりえ方の大切さが分かりました」など、故郷の良さを再確認する機会となったようでした。



📷 撮影会に参加して

「東西に流れているので日の出、日の入りが撮れる貴重な川。こんなに大きな川が、人の生活にとけこんでいて、四季折々の表情があって水の表情がみられる。吉野川にいと心がいやされるんよな」

三好さんの言葉を聞き、「心が写る写真。景色を心に写す」そんな気持ちを大切にしたいと思いました。

三好和義氏プロフィール

- 1958年◆徳島市寺島本町に生まれる。
- 12歳◆大阪万国博覧会に日参し、写真を撮る楽しさに目覚める。
- 14歳◆カメラのキタムラ主催の写真コンテストに作品が初入選。
- 15歳◆徳島新聞に初めて写真が掲載される。
- 26歳◆写真集「RAKUEN」を出版し、木村伊兵衛賞受賞。
- ◆よんでん文化賞受賞。
- ◆藤本四八写真文化賞受賞。
- ◆徳島県美術展招待作家。



www.rakuen-co.com

お知らせ

徳島で開催される「第28回日本文化デザイン会議'06 in とくしま」の一環として写真展が開催されます。

三好和義写真展 ～特別展示 吉野川天水写真展～

- ◆日時 10月14日(土) 11時～18時まで
15日(日) 10時～17時まで
- ◆場所 アスティとくしま

※日本文化デザイン会議とは…アーティスト、建築家、ミュージシャンら約100名が集まり、講演、シンポジウム、ワークショップなどの催しを開催。四国では、初の開催となり、10月13日(金)には、サテライト会場として、徳島市、鳴門市、吉野川市、神山町の各会場でも各地の特色ある文化を感じることができます。

第28回日本文化デザイン会議'06 in とくしま実行委員会
【徳島県国民文化祭実行部】TEL: 088-621-2343
HPアドレス: <http://www.jidf.tokushima.jp/>



吉野川 いま むかし

このコーナーでは、
吉野川の今と昔を紹介し、
過去を見つめ、未来の吉野川を
創造します。

大歩危 小歩危編

今回も、先月号に引き続き、三好市池田町にお住まいの
川崎裕子さんのライブラリーより、お届けします。
今回は、写真そのものでなく、絵はがきの登場です。
昭和初期、裕子さんのおじいさまは、国鉄の駅に個人で売店を出していました。
大歩危などに出かけて撮影し、売店で販売していたものです。
地元のようなかんなどとともに、絵はがきは、
売店の人気商品だったそうです。

三好市山城町の大歩危には、三波川変成帯の結晶片岩という変成岩が分布しています。

なかでも、とりわけ固い砂質変岩の上を吉野川が流れており、吉野川の流れが、
その岩を、一千万年以上もの間削りつづけることで、今の大歩危峡谷が作られました。

大歩危には、吉野川下流にある砂や石ころが積もった河原はなく、

今でも吉野川がひたすら岩を削りつづけているのです。

このように、一千万年以上もの時間をかけて作り出される渓谷美は、吉野川を代表する景勝地。

春はイワツツジ。夏は山の緑としぶきをあげて、流れる清冽な吉野川の流れ。

秋は、山々を彩る美しい紅葉。冬の静寂。

四季折々の美しい光景は、いつの時代も

人々の心を楽しませてくれますね。



昔



昔



昔



今

5月。遊覧船乗り場の
岩とこいのぼりが、カ
ラフルなコントラス
トを見せている。



今

大歩危には、県の天然記念物に
指定されている礫質片岩などが
発見され、大変貴重な地域となっ
ている。そのような石のほか、世
界の鉱物を見ることが出来るラピ
ス大歩危石の博物館。このラピスという名は、青い石「ラピスラズリ」
から、名づけられたもので、青く流れる吉野川をイメージしている。
このラピスラズリも、石の博物館で見ることが出来る。



今

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!

河内 小学校 の巻

吉野川の支流・白川谷川がすぐ目の前に流れている河内小学校(三好市山城町)。全校児童7人で総合的な学習の時間と生活の時間に地域のことを中心に学習しています。

地域の特色を活かし、オオダイガハラサンショウウオや森林の研究、そばの栽培やお茶つみ体験など、幅広く学習しています。オオダイガハラサンショウウオは、日本固有種で近畿以西の標高400メートル以上に生息する両生類です。

徳島県版レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されています。

子どもたちがオオダイガハラサンショウウオの存在を知ったのは平成13年のことでした。もともと地域の学習で、白川谷川をテーマに、ペットボトルを使用したいかだ作りや、水生生物調査を行っていました。その時にゲストティーチャーの久保清治さんから「白川谷川に、きれいな川にしか棲めないオオダイガハラサンショウウオがいましたが、最近では、見かけていません」というお話をきいたことから、子どもたちが「見たい。探検してみよう」と提案し、実現することになりました。それから毎年、1年に一度、産卵期である5月頃に、小学校から6kmほど離れている白川谷川の源流で観察会を行い、毎年何匹かの生息を確認することができています。数年にわたる観察から、台風が前年に多く



オオダイガハラサンショウウオ



白川谷川の源流をバックに

「大好き! わたしたちのふるさと、河内」



オオダイガハラオオサンショウウオの観察。

きたときには個体数が少なく、台風が少なかったときの翌年には、個体数が多いことも分かってきました。

子どもたちは河内地区に誇りをもっています。中学生になっても、他の校区の生徒に河内のことをよく話しているそうです。オオダイガハラサンショウウオが生息する白川谷川を自分達で守っていかなくてははいけない。そんな思いから、水質を調査したり、環境に関する俳句を作って徳島子ども俳句の会に投稿したりしています。

川も身近な存在で、泳ぐことはもちろん、牛乳パックで船を作って乗ったり、水生生物やホタルの観察を行ったりしています。今年は、川との関係が深い森林についても学習がスタートしています。森林の役割についてなど、多岐にわたっています。「森林が多く、いい木が育てば、



オオダイガハラサンショウウオの観察

川がもっともっと美しくなるのではないかな。そんな思いもあるそうです。「今体験していることが、すべて将来につながっていきます。ふるさとを思う気持ち、今の気持ちは大人になった時の宝物になるはず。いついつまでも宝物であり続けるように育ててほしいです」と先生が話してくださったのが印象的でした。

子ども達が見つけた個体数

平成13年	21匹
平成14年	15匹
平成15年	33匹
平成16年	15匹
平成17年	5匹 御嶽(のう)2個 (御嶽の中に5匹確認)
平成18年	16匹 御嶽は0個

吉野川三評

い「一級水系」「一級河川」

川は、いくつもの流れが集まって、一本の大きな流れとなっています。この河本もの川すべて(湖、沼を含む)を水系といいます。徳島県では、吉野川と那賀川が一級河川

国土保全上または、国民経済上、特に重要な水系を「一級水系」といい、国土交通大臣が直接管理しています。この一級水系に含まれる河川を一級河川といいます。

に指定されています。一級水系は、全国で109水系あり、一級河川は、全国で13、994河川が指定されています。

データ出典
平成17年4月30日現在 2006 河川ハンドブック

※写真提供河内小学校



「ふる～ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる～ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる～ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めと
りぽーと

先月届いたものですが、先月は、ふる～ぶめいと募集をお知らせしたため、掲載が遅くなりました。

「西瓜コンクール」つるぎ町 大塩邦光さん

吉野川中流から下流は西瓜づくりが盛んです。特に「土柱スイカ」は、有名です。

7月14日、つるぎ町公民館主催の第30回西瓜コンクールが行われました。会員57名が、一人1個と制限された条件で、自慢の作品を持ち寄りました。審査は外形をはじめ、食感まで6項目について、県の専門の方によって、行われました。



今年のように、日照が平年の50パーセントと、悪い条件でしたが、糖度は、平均11度以上のよい成績でした。

午後は、貞光ゆうゆう館を訪れた方々が試食しました。訪れた方々には、思わぬプレゼントに大喜びでした。

ふる～ぶ展が開催されました

8月18日(金)～20日(日)までアミコシビックセンターギャラリー(徳島市元町)で、ふる～ぶ展を開催し、300名を超える方々にお越しいただきました。今回の展示では、西山欣子さんによる表紙イラスト原画50点や、ストーンアート、竹細工、ふる～ぶめいとの活動などを紹介するパネルを展示しました。今回初めての試みとして、ふる～ぶが取材に行った小学校の中から、協力をいただいた小学校での総合学習をまとめた研究成果を模造紙にまとめたものや、ふる～ぶめいと長江さんによる竹細工教室(20日)も開催しました。

竹細工教室では、切出しナイフを初めて持つという子どももいましたが、ケガをしないように、そーっと持ちながらも、目がいきいきと輝いていました。

今回つくったのは、振動により、竹でつくった羽がくるくると回るといふもの。羽が回り始めた時には、子どもたちからも歓声があがっていました。また、笛を使って、パッタを作るコーナーも設け、大人も子どもも、夢中になっていました。

今後もふる～ぶ展を開催していきます。展示内容も変わっていきますので、次回開催するときには是非お越しください。ご来場いただいたみなさん、ありがとうございました。



小学校の総合学習コーナー



竹細工教室の様子



ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる～ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

【ふ手世】
インド東北部原産ミカン科の植物で葉に強い芳香があります。果実はまだ実つてはいませんが、仏の手指の形をしたとてもめづらしいものだそうです。肝臓病や熱冷まし、不老長寿の漢方薬として、又、高級菓子の材料

ちなみにユーカリの種類の数は五百～六百種、変種も含めると八百～千種もあるそうです。これからの季節、呼吸器系疾患予防に活躍が期待されます。



【ユーカリ】
オーストラリア原産のユーカリにちよつとした異変が……。それは一本の木から二種類の葉がでてくるのを発見したからです。一本の枝には丸葉が、他方には細長い葉がまるで接木をしたかのごとく、風にそよいでいるのです。何、これ!!結果は、

今回は最近ちよつと気になる我が家のハーブをとりあげてみました。

【黒川慶子さん経歴】
ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

「ヘビクワリ」
ウリ科カラスウリ属の一年草で、姿はまるで蛇のようです。広島県の中元さんは、栽培を通じて、青少年育成に力を注がれています。同氏から送られた我家の瓜には、三本の苗から三十三本の蛇瓜が実りました。さわるるとビーンツツの香りがする。これは孫の発見によるものです。東南アジアでは「ヘチマ」と同じように、若い果実をなますにしたり、スूपやカレーに入

「スリラックストツリ」
「見食飲花」葉は煎じて飲めば強壮剤としてとても飲みやすいです。花は天然芳香剤、癒しの香りとして気持ち落ち着きます。実は生食、ジャム、ジュースとしてとても美味いのです。の説明に思わず飛び付きました。ミカン科ゲッキツ属の常緑小高木でシルクジャズミンとも英国ではオレンジジャズミンともいわれています。

れて食べるそうです。

ふる～ぶ INFORMATION

竹細工教室 参加者募集のお知らせ

吉野川沿いには多くの竹林があります。竹は、インテリアや遊び道具、また建築の素材など幅広い用途で使われています。今回はふる～ぶめいととの長江順次さんをはじめ、ふる～ぶめいとのみなさんに講師になっていただき、大人にはおしゃれな竹の花瓶を、子どもには、竹とんぼを作っていただき、竹とんぼ飛ばし大会を開催します。また、お昼には、竹の容器にいれたごはんを食べる予定です。みなさん自然の竹の良さを感じ、世界にひとつしかない自分の作品をつくってみませんか?



募集要項

日 時	平成18年10月29日(日) 10:00～15:00
場 所	石井町河川防災ステーション 名西郡石井町藍畑西覚円
参 加 費	1人 300円程度(損害保険料、材料費)
人 員	小学校4年生以上と保護者15組(30名程度)
開 切	平成18年10月18日(水)
申込方法	氏名、年齢、住所、電話番号、郵便番号をご記入のうえ、ハガキまたはFAXをお送りください。 申し込み多数の場合は、抽選となります。
申し込みおよびお問い合わせ先	〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28 (株)四電技術コンサルトタント内 ふる～ぶ編集部「竹細工」係 TEL・FAX: 088-623-6085
主 催	ふる～ぶ編集部 ふる～ぶめいと

